



枝桑抄系集
二十二

伊地知文庫
文庫20
360
25



文庫20
360
25

松素拾葉集卷第二十二

松素拾葉集卷第二十二

目錄

- 可くりめ草 釋心徹
- 水字のむらり 同
- 壽元述懐和歌序 同
- 山乃りりきみ 友原雅康
- 関東海道記 同

おの女房の貴女をきかへし。我々のかたにありて
世のふれどもあつていふ。あつて。穿年のお女房
うゑまて。言ふ。うらげりぬ。ふまふ。あつて。あつて。
去。りぬ。西方の世の境。を。た。ら。せ。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。
う。ゑ。ま。て。い。ふ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。
う。ゑ。ま。て。い。ふ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。

志賀のうらむらむら。あつて。あつて。あつて。あつて。
れ。い。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。
この先の河。し。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。

おの女房の貴女をきかへし。我々のかたにありて
世のふれどもあつていふ。あつて。穿年のお女房
うゑまて。言ふ。うらげりぬ。ふまふ。あつて。あつて。
去。りぬ。西方の世の境。を。た。ら。せ。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。
う。ゑ。ま。て。い。ふ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。

志賀のうらむらむら。あつて。あつて。あつて。あつて。
れ。い。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。
この先の河。し。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。

おの女房の貴女をきかへし。我々のかたにありて
世のふれどもあつていふ。あつて。穿年のお女房
うゑまて。言ふ。うらげりぬ。ふまふ。あつて。あつて。
去。りぬ。西方の世の境。を。た。ら。せ。ぬ。あ。つ。て。あ。つ。て。
う。ゑ。ま。て。い。ふ。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。あ。つ。て。

番馬りあり井のわたり取らる。山ゆしは海の里は
ふゆゆ。氷のわたりをせく。常磐木はなま
ゆる。着るふのうきこらく。松の葉は若く山吹。えん
いぬまを張るかかり

いぬまを張るかかり
いぬまを張るかかり

今夜の山中はさうゆきぬ。浮生の末の風も可
ま。山風は程何となく。そは海もさむいさ
ゆきらまをせ

いぬまを張るかかり
いぬまを張るかかり

関の夜にわたりは。不破の海

いぬまを張るかかり
いぬまを張るかかり

師上のやうな所は。かきかきかきかき。い
のうき。あもも。國の境もさう。南の方へは
山もさう

いぬまを張るかかり
いぬまを張るかかり

雲取川は素濃尾張の境とや。岸はさやまゆ
船をいひかき。ほかまて。時を法もまて。海いぬ
ぬ。さけあま。雲の子さう。あま。あま。あま

くむま...のむむ。明徳の比軍の...かき...
い...あ...は...な...中...盛衰...
所...は...と...の...に...
念...と...年...の...
み...不...か...か...
も...の...か...か...
か...か...か...
う...か...か...か...
ら...か...か...か...
も...の...か...か...
も...の...か...か...

系...の年...か...か...
手...か...か...か...
同...か...か...か...
住...か...か...か...
語...か...か...か...
ら...か...か...か...
字...か...か...か...
文...か...か...か...
語...か...か...か...
女...か...か...か...

あゆみよき事なりしをいふは、
藤人といふは、
けしきとらつた事なり。白蛇といふは、
ことある時このわらふ事なり。光澤長くも、
ことある事なり。年久懸連歌の道なり。はなはだ、
ことある事なり。世の中よき事なり。あつた事なり。あつた事なり。
初の花色ともいふ。女の体なり。あつた事なり。あつた事なり。
ことある事なり。是れは、
かゝるの事なり。あつた事なり。あつた事なり。あつた事なり。
うかふ事なり。予し、
うかふ事なり。予し、
うかふ事なり。予し、

近年天下同一は、
みか、
ま、
侍とも、
おあり、
予し、
かゝる、
とく、
の物、
芝、
祝、

かして花壇橋衣ざりぬぬし。わらわの道よ弱
るるも。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱
又中へさかす。豊原の。花。わらわの道よ弱るるも。
涼月の曉。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱
ら。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
花の月。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。

文の夜。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
文の夜。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
文の夜。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
文の夜。わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。

わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。
わらわの道よ弱るるも。わらわの道よ弱るるも。

わらわ

神は海を渡る舟を
ついでに

又長をわれ〜
又長をわれ〜

又長をわれ〜
又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

又長をわれ〜

ふかき山に月を照らす

華とらうして花を

はるかに花の影をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

光源氏の物あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

あはれに花をりて

ハ波志子にありて。丙丁童子。母傳はる。應永
廿二年。河ま。五の年。林七月十日。旨ふ。と書こ也
志。可也

か。く。あ。ま。が。く。ら。免。ま。の。権。ま。ん
い。う。く。ら。ら。ん。と。の。相。と。い。ふ。か。
花洛清菟山科。正徹。才八歳

志。行。一。ま。の。道。と。は。ま。と。文。一。ん
よ。代。の。志。一。葉。松。の。ら。ぬ。は。代
乃。ま。の。ら。ぬ。同

十九日。山節の。沖鏡。碓。能。独。園。一。は。る。母。あ。は。る

松梅院。母。あ。は。る。ゆ。ま。は。る

廿日。朝。多。波。島。ま。は。は。る。母。の。か。ら。う。と。ま。は。る
ま。ま。の。波。一。ん。と。ま。ま。の。波。と。ひ。て
日。ま。ま。の。ま。ま。か。元。れ。了。記。雪。云

也

時。あ。ま。の。志。一。ま。ま。の。ま。ま。の。波。と。ひ。て
ま。ま。の。波。と。ひ。て。ま。ま。の。波。と。ひ。て

沖鏡。を。ま。ま。の。朝。内。節。の。ま。ま。の。見。あ。は。る。して
冲堂。の。か。ら。う。と。ま。ま。の。波。と。ひ。て。母。の。ま。ま。の。波。と。ひ。て
人。の。か。ら。う。と。ま。ま。の。波。と。ひ。て。あ。は。る。あ。は。る。あ。は。る。あ。は。る
ま。ま。の。波。と。ひ。て。ま。ま。の。波。と。ひ。て。ま。ま。の。波。と。ひ。て

らめだのたのたかきわもせ
いあゝえまの法まありと
大母をきこくしりあてり法除くはあ
よふたうわとまあかこころのいあ
母こ乃大の結縁とまより母あぬい
はははははははははははははははは
あつみ水くもあははははははは
いそし母年まであぬ無んははははは
あははははははははははははははは
し母中展博の功徳いあははははは
まははははははははははははははは

父法のまほとまのいあはははは
老ぬとせしあはははははははは
まははははははははははははははは
乃能とまあはははははははははは
らははははははははははははははは

老まらとせしあはははははははは
らははははははははははははははは
あまのまあはははははははははは
あははははははははははははははは
のあはははははははははははははは
あははははははははははははははは
あははははははははははははははは

家々を狩らねばとて
非なるものなり

法にもはたのまじりて
かゝらざるべし

かゝる者なきに
かゝるはたのまじり
と云ふべし

かゝるはたのまじり
君のまじり

神とてはたのまじり

かゝるはたのまじり

永享二年神皇月廿日北野の
くみもくろ持佛とて
草子の楚よはとめて
お舟てんははし
世法の楚よはとめて
はたのまじり

我とて君はたのまじり

かゝるはたのまじり

寄花述懐和歌序

宮にやしの思ひのこりやうらな
あやめの花をけり去くを
七日依雨遠き一はよ長夜大浦を
わを結

宮古人の昔さるるのこり
よき兒女雨を

近

うみをいさむるは地を
もろしきくしの花を

八日春あやうりて哥菊張り
歌とら

初春

道とれ一代がまはるる
うみをいさむるは地を

柳風

あけしやい吹くは
らきき流るる玉のく

林田

よの海に道は
あけしやい吹くは

逢憲

猶乃うふ

うらやまのたのしみ

松

あつたつたのたのしみ

松のたのしみ

はまのたのしみ

十二日酒房佐渡入道誠意五郎の由りて東道より一筆の

中

郵云

宮古とてはなごころのたのしみ

伊勢まゝのたのしみ

納涼

山崎のたのしみ

松のたのしみ

根意

いしのたのしみ

かまのたのしみ

十六日太神宮母代官の入道とてまゝのたのしみ

五十鈴川柳のたのしみ

かまのたのしみ

十七日尾州大野母つと結ぶはなごころのたのしみ
今度柳一見のたのしみ

らまき——つた夏のをりるま。

祝言

松のうみにらるる松の木とらふてい

玉のと川のせ橋をきき見舞

十九日八橋とみり人とりといはゆるははは交

うさうさか荒るる。かみつらうりあはさふらうり

うさうさか侍も。あはれあはらうりははは

かはらふ神にわかきあは橋と

きしてすけあはらうり成らうり

辰のれとあはらうりしおの橋と

せうらあはらうりせうらあはらうり

かみつらうりいみあはらうりあはらうり
つたあはらうりあはらうり

古川備川より。舟もて参り河をわたりははは。風がらて

つらとらあはらうりはは。あはらうりあはらうり海松とせ

らうり。伊勢の人のあはらうりははらうりは

君とらあはらうりあはらうりあはらうり袖のれ

伊勢の人のあはらうりあはらうりあはらうり

是一後日みり記ふあはらうり

君といふみりあはらうりあはらうり袖の

あはらうりあはらうりあはらうりあはらうり

大濱とらあはらうりあはらうり道場とらあはらうり

中尊の御影よ

石舟の浪給をぬき思ひし

くわいの世に舟をせしき世

あまの松中よわのしはる夜にふりよしの松の

くと往還しはれむおといつてなは

難波の舟の舟に舟に舟に舟に

りへの去りよせし舟の舟に

共吾佐久馬とよ舟の舟に舟に舟に舟に舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

かゝる世に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

六月可今橋の舟に舟に舟に舟に舟に舟に舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に舟の舟に

果しやはさし〜むとぬ愛し〜あし
むとぬ愛し〜あし
九日依夜中山よ〜物と見〜する母・雲のわがり
り〜る〜見〜る〜物と見〜する母・雲のわがり
きり〜る〜見〜る〜物と見〜する母・雲のわがり

お母〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母
若〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母
と紙〜したに振〜き〜け〜作〜く〜不〜二の格と
ち〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母
四方〜つ〜山〜と〜物〜と〜見〜する母・雲のわがり
お〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母

あ〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母
み〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母
月〜と〜雲〜と〜の〜物〜と〜見〜する母・雲のわがり
物〜と〜見〜する母・雲のわがり
と〜見〜する母・雲のわがり
り〜る〜見〜る〜物と見〜する母・雲のわがり
物〜と〜見〜する母・雲のわがり
又〜い〜母〜い〜母〜い〜母〜い〜母
り〜る〜見〜る〜物と見〜する母・雲のわがり

り先こゝめぬしる者云
ゆゑの花の雲のけしきを我より
志のふの山乃若くやいふ
十言江馬ともらてのけしきよ吉長のお寺よ
て。ゆきらのぬ。有明の月よりいふやけしき
横雲の引子の雲とぬしき
まゝいふこゝめぬしる者云

十六日極見板と女とあり
志の松原とふたりの雲を女と志とあり

わうしるぬのまのしるし
はたぬしるしを女とあり

十七日又水野右衛門大夫取子上云けり。教日の定座
と可敷と申。かゝるしるしを女とありししかんぬ
しるし。猿樂以下娘とぬ
又二言江馬とありかゝるしるしを女とあり

朝輝
張りしるしを女とありしるし

世々のもろらしと朝の如きもの
君意

しらぬもあつた女のあな意の
ささく公の心海にさし

道のよにお傳へ高橋かきと君へ侍りて
はらへ

契とて君にさぬと字もしは
みらぬと海とのこし

七月七日関長郡大捕者ありて人々顔泣き繁て

七夕枕

さゆくらとさゆくらと寝て

うしとさゆくらとあかりの波

惜月

かしのぬらひと人々のあな意の
あな意のあな意の月とあな意

寄露窓

我命とさゆくらとあな意の
あな意のあな意のあな意

述懐

あな意のあな意のあな意の
あな意のあな意のあな意

いさよの娘の申納云入道采女有し時波河曲の
まはるるをいさよの娘は侍従大納言實隆の
ついでにせられたる。

あそしきまのいさよのいさよのいさよ
いさよのいさよのいさよのいさよ

一

今いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの

又雅也の波山とていさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの

いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの

一

いさよのいさよのいさよのいさよの
いさよのいさよのいさよのいさよの

三井寺のつとむる人々の御事御成
しけ

くしめふしの女はあまの
ゆきをとりきりてあま

通

不方山とてあまの御事御成
福のいふはあまの御事御成

枝葉拾葉集卷第二十二終

心

心

